皮膚科領域における Flucloxacillin の治験

川村太郎・高橋　久・富沢尊儀
東京大学医学部皮膚科学教室

1. 緒　言

Flucloxacillin は，その抗菌スペクトラムによればグラム陰性菌には無効で，*Streptococcus faecalis* を除くグラム陽性菌に抗菌力を示すとされている[1]。今回，皮膚科領域においてとくに *Staphylococcus* による感染性皮膚疾患に本剤を使用して，若干の治験を得たので成績を報告する。

2. ブ菌に対する感受性

ブ菌感染性皮膚疾患を有する患者の病巣より分離培養したブ菌26株（一部は保存菌）に対する Flucloxacillin の抗菌力を検した。その結果は表1のとおりである。なお感受性試験は，ハートインフュージョン寒天平板培地を用いる倍数稀釈法により最小発育阻止濃度（MIC）を測定した。測定法は日本化学療法学会標準案によつた。

表1　患者分離ブ菌に対する Flucloxacillin の抗菌力　(26株)

菌　種	株　数	MIC mcg/ml			
		<0.19	0.19	0.39	0.39<
Staph. aur.	19	0	11	8	0
Staph. epid.	7	0	5	2	0
計	26	0	16	10	0

3. 臨床成績

使用した Flucloxacillin の剤型は1剤 125 mg 含有のカプセル剤で投与量は1日量成人で6～8カプセル，1日3～4回の投与とし小児は適宜減量した。投与日数は3～21日で，併用療法は原則として行なわなかつたが，症例によつては症状に応じて局所治療を施行したものもある。なお他の内用薬剤は全く併用しなかつた。その使用成績は表2のごとくである。うち第2例と第11例について治療前および治療後の臨床症状の比較を写真で示した（図1～図4）。

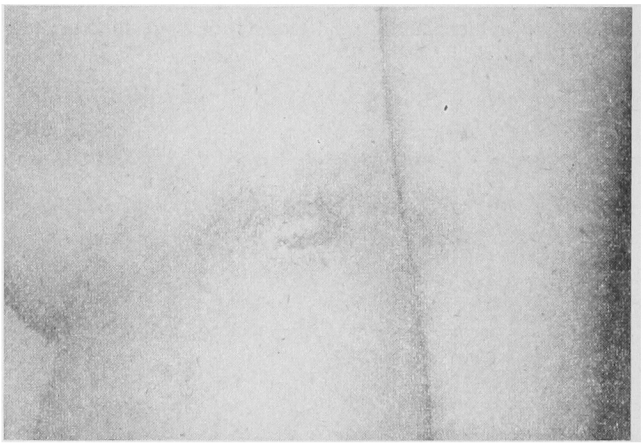

図1　第2例　初診時治療前，左鼡蹊部と左前腕屈側に強い発赤と膿栓

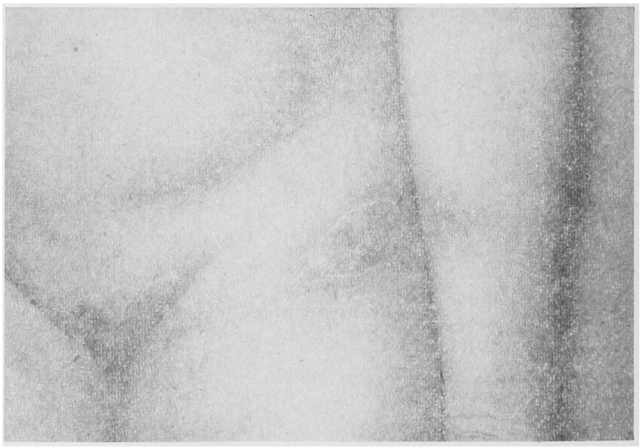

図2　第2例　Flucloxacillin 治療後3日目，鼡蹊部は排膿停止し，左前腕は排膿せず吸収され落屑縁を生じて治癒傾向進む

4. 考　按

患者の病巣より分離したブ菌26株に対する Flucloxacillin の最小発育阻止濃度（MIC）は *Staph. aureus*, *Staph. epidermidis* とも，すべて 0.19～0.39 mcg/ml であることは，Flucloxacillin が皮膚病巣のブ菌に対して強い抗菌力を有することを示す。この中には他の諸種抗生物質に耐性を示すブ菌もあつたが，

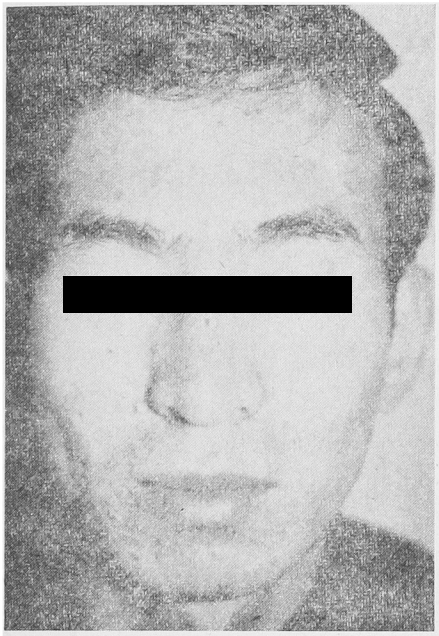

図 3　第11例　初診時治療前，鬚髯部に多数の膿疱を認める

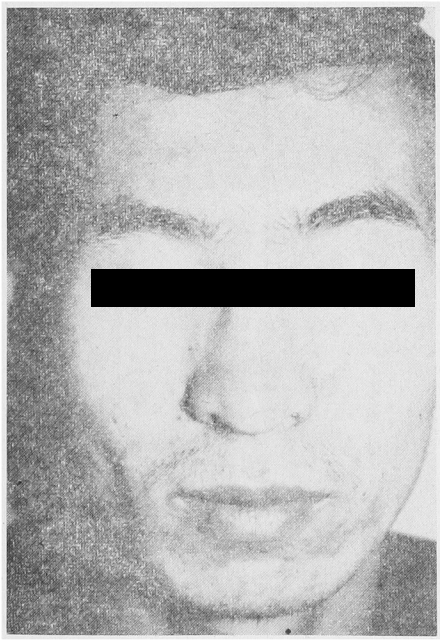

図 4　第11例　Flucloxacillin 治療後 5 日目，膿疱すべて消褪した

PC-G を含めてこれらに交叉耐性はもちろん全くなく，かつまた MIC にも特別な差違は認められない。

臨床効果は判定規準を著者らの主観，すなわち経験的な判断にしたがつたが，全症例22例中，著効 9 例，有効 5 例，やや有効 4 例，無効 2 例，不明（副作用による投与中止）感染防禦効果有り各 1 例という効果であり，Flucloxacillin はブ菌感染性皮膚疾患に対して感染防禦効果も含めて，治療効果がきわめて大で有効率が高い。なお 1 日量 4 cap.（500 mg）でも著効例があり本剤の血中濃度，とくに皮膚濃度はかなり高いであろうということが推察される。

とくに急性化膿性皮膚疾患には極めて有効であつたが，いつぽう慢性の場合は本剤の投与を中止すると再発するものが多かつた。また 2 次的感染性皮膚疾患においては本剤によりこれが治癒しても，原疾患が残存するのは致し方ない。このような場合は 2 次疾患治癒後，原疾患の治療に切替えた。

副作用は内服後かなりの胃障害を訴えたため，直ちに投与を中止せねばならなかつた 1 例と，内服後強度の疲労感，脱力感があると訴えた 1 例があつた。前者はいちおう副作用と考えられるが，後者は不明である。両例とも投与中止後かかる症状は消失した。他に発疹を生じたり血液像，肝機能，腎機能に影響を及ぼした例は皆無であつた。

5. 結　語

1）Flucloxacillin は感染性皮膚疾患を有する患者の病巣より分離したブ菌に対して，最小発育阻止濃度がすべて 0.19～0.39 mcg/ml の範囲であつた。

2）Flucloxacillin はブ菌感染性皮膚疾患に対してきわめて有効であつた。また感染防禦効果も認められた。

3）Flucloxacillin はブ菌感染性皮膚疾患に対して比較的少量，成人で 500 mg/day でも著効を示すことがある。

4）Flucloxacillin の副作用はきわめて少ない。

文　献

1）桑原章吾：第15回日本化学療法学会東日本支部総会シンポジウム（Flucloxacillin）発表より，昭和43年11月，東京

表2 臨床使用成績

症例	年令	性	疾患名	起炎菌	1日量	投与日数	経過	副作用	効果
1	28	♀	癤	*Staph. aur.*	4 cap.	3日	膿栓不変残存，発赤拡大	−	無効
2	8	♀	癤	〃	6	3	投与後3日で改善	−	著効
3	24	♀	癤	不明	2	1	胃障害の副作用のため内服中止	＋	不明
4	14	♂	癤	*Staph. aur.*	8	3	発赤，腫脹，疼痛の軽減	−	有効
5	62	♀	顔面癤	〃	4	4	投与後4日で腫脹(−)疼痛(−)菌(−)	−	著効
6	40	♂	顔面癤	〃	6	5	投与後5日で発赤，腫脹，疼痛消失	−	著効
7	31	♀	顔面癤	不明	8	4	発赤消失，排膿せず吸収された	−	著効
8	24	♂	癤腫症	*Staph. aur.*	6	14	油性痤瘡に併発 0.1% アクリノール硼酸亜鉛華軟膏併用。新生止むも完治せず	−	やや有効
9	27	♀	癤腫症	〃	8	18	内服中10日目位から新生するようになる	−	無効
10	27	♀	毛嚢炎	〃	6	5	古い尋常性痤瘡が半年前から化膿する。内服後化膿傾向止むも痤瘡残存	−	やや有効
11	22	♂	毛嚢炎	*Staph. epid.*	6	5	5年前より尋常性痤瘡 最近化膿傾向，投与後5日で膿疱全く消褪した	−	有効
12	22	♀	集簇性痤瘡	〃	6	4	4年前より尋常性痤瘡 最近化膿癒合 化膿傾向止むも痤瘡は不治	−	有効
13	14	♀	集簇性痤瘡	〃	8	21	1年来投与後漸次化膿傾向なくなつたが痤瘡は不治	−	やや有効
14	20	♂	集簇性痤瘡	〃	8	4	3年来漸次増悪 投与後化膿傾向止む	−	有効
15	23	♀	集簇性痤瘡	不明	6	4	7年前より尋常性痤瘡 最近悪化し，膿疱生ずる 投与2週で膿疱(−)	−	有効
16	13	♂	顔面癤及び頸部淋巴腺炎	*Staph. aur.*	6	5	投与後排膿止み，淋巴腺腫脹消褪す	−	著効
17	22	♀	炎症性粉瘤	G(＋) cocci	6	2	発赤，腫脹，硬結消褪す	−	著効
18	5	♀	伝染性膿痂疹	*Staph. aur.*	2	5	0.1% アクリノールソルベース併用すみやかに乾燥した	−	著効
19	3	♀	伝染性膿痂疹	〃	2	4	アトピー性皮膚炎を有する患者で，掻破中膿痂疹を生じた 0.5% アクリノール硼酸亜鉛華軟膏及びレスタミンコーチゾン軟膏併用して投与後4日で水疱糜爛消失	−	著効
20	15	♂	爪廓炎	〃	8	14	3年来しばしば排膿，投与後排膿停止したが腫脹とれず治療を止めたら再び排膿，完治しない。内服後疲労するという	＋？	やや有効
21	24	♀	瘭疽	〃	4	5	1,000倍アクリノール水湿布併用		著効
22	40	♀	第Ⅱ度熱傷	(−)	6	10	化膿せず常に菌陰性	−	感染予防効果あり

LABORATORY AND CLINICAL STUDIES ON FLUCLOXACILLIN

TARO KAWAMURA, HISASHI TAKAHASHI & TAKANORI TOMIZAWA
Department of Dermatology, Faculty of Medicine, University of Tokyo

The minimal inhibitory concentration of flucloxacillin for *Staphylococcus* strains obtained from the lesions treated, ranged between 0.19 and 0.39 mcg/ml.

Certain strains among those mentioned were revealed to be non-sensitive to penicillin or some other antibiotics.

Twenty-two cases chiefly consisting of staphylococcal skin infection were treated with flucloxacillin.

Flucloxacillin was revealed to be very effective to the acute suppurative staphylococcal skin infections, while somewhat less effective to the chronic ones.

In one case of burn, flucloxacillin revealed to have prevented the secondary infection.

Even a small dosis of flucloxacillin *i.e.* 500 mg/day in the adult was sometimes found to be effective.

The untoward effects of flucloxacillin were encountered in 2 out of 22 cases, but not serious ones.